

事業所名

児童発達支援・放課後等デイサービス OWL

支援プログラム

作成日

2024年

11月

28日

法人（事業所）理念	子ども達が楽しく遊びながら学び、得意なことはさらに伸ばし、苦手なことは補い、社会との繋がりを持てるようにして、子ども達の最善の利益を目指します。							
支援方針	子ども達に適切な療育が提供できるように、環境設定や支援方法などを模索しながらチームアプローチで対応し、個別・小集団のトレーニングに取り組みます。また、子ども達が放課後等に、家庭・学校以外の居場所として安心して過ごすことができる場所、楽しんで過ごすことができる場所として、地域に貢献していきます。							
営業時間	月～土	9時00分	から	18時00分	まで	送迎実施の有無	あり	学校・自宅のみ
支援内容								
本人支援	健康・生活	来所後、手洗い、衣服の着替え、排泄コントロールなどにより衛生面を意識できるようにしたり、食育活動（おやつ時間）に様々な食べ物を食べる経験を積み、摂食嚥下のトレーニングに取り組んでいます。また、自分の棚で持ち物を管理したり、遊び終わった知育玩具を片付けたりして、整理整頓ができるように環境設定を図っている。さらに、知育バッグでの日常生活動作（ADL）を高めることにも取り組んでいます。その中で、職員が支援を行い、児童本人が主体的に生活の質（QOL）を高めていけるように取り組んでいます。						
	運動・感覚	事業所内では、活動の時間や余暇時間、創作活動、おやつ時間などに部屋の様々な場所で自由に遊んだり、着席したりする時間を設定しています。また、CoCoRoMap（大画面タッチパネル）やバランスボールで楽しみながら粗大運動に取り組んだり、知育玩具や知育バッグを使って手や指先の微細運動運に取り組んだりして、身体の運動感覚を身につけられるようにしています。事業所外では、施設や公園などに外出し、身体を思い切り動かして遊べるように取り組んでいます。						
	認知・行動	宿題等のフォローを行い、学習内容の理解や自己肯定感を高めていきます。また、CoCoRoMap（大画面タッチパネル）に取り組み、楽しみながら、認知の発達と行動の習得、空間・時間・数等の概念形成の習得に取り組めます。さらに、デジタル認知テストの脳バランスキッズを用いて認知機能のアセスメントを取り、児童一人ひとりの発達の特徴、偏りに合わせた支援を行います。児童同士が集団の中で過ごす場面では、自分の感情をコントロールしたり、相手の感情を理解できるように、職員が介入したり、見守ったりしながら支援を行います。						
	言語 コミュニケーション	自分のやりたいことや、助けて欲しいことなどを自己表現ができるように、児童の特徴や発達段階に応じて、絵カードや身振り手振り、文字や口頭を使ったコミュニケーション手段に取り組めます。また、話を聞くことができるように、環境設定を行ったり、集中力を高めるような活動に取り組むことで、相手の話を聞くことができるように取り組めます。児童同士が集団の中で過ごす場面で、スムーズにコミュニケーションが取れるように、職員が介入したり、見本を示したり、助言を伝えたりして支援を行います。						
	人間関係 社会性	集団活動や余暇の時間を通して、児童達が関わり合いを持てるように促し、順番を守ること、ルールを守ること等、人間関係の良好な構築が図れるように支援を行う。また、社会で守らなければならないルールについても身につけられる機会を設定し、社会で生きていくために必要なスキルを身につけられるように、ソーシャルスキルトレーニングに取り組みながら必要な支援を行います。						
家族支援	本人の事業所での様子を伝えて、ご家庭での様子の聞き取りを行い、情報交換しながら保護者の心配事に寄り添って助言を行う。			移行支援		本人の状況や支援内容等をアセスメントし、転校・進級・進学などのライフステージの際に引き継ぎを行うことで情報の共有を図る。		
地域支援・地域連携	学校や他事業所等と情報の共有を図り、連携を取りながら本人支援を行う。			職員の質の向上		内部研修や外部から講師を招いての研修を行い、障がい児に対する理解を深めたり、支援方法の向上を行う。		
主な行事等	施設・公園への外出（おでかけ）、季節の行事、クッキング等							